

日本キリスト教会大阪北教会

2017年8月13日(日) 聖日礼拝説教 牧師森田幸男

聖書 エフェソの信徒への手紙3章14節～21節

14 こういうわけで、わたしは御父の前にひざまずいて祈ります。15 御父から、天と地にあるすべての家族がその名を与えられています。16 どうか、御父が、その豊かな栄光に従い、その霊により、力をもってあなたがたの内なる人を強めて、17 信仰によってあなたがたの心の内にキリストを住ませ、あなたがたを愛に根ざし、愛にしっかりと立つ者としてくださるように。18 また、あなたがたがすべての聖なる者たちと共に、キリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解し、19 人の知識をはるかに超えるこの愛を知るようになり、そしてついには、神の満ちあふれる豊かさのすべてにあずかり、それによって満たされるように。20 わたしたちの内に働く御力によって、わたしたちが求めたり、思ったりすることすべてを、はるかに超えてかなえることのおできになる方に、21 教会により、また、キリスト・イエスによって、栄光が世々限りなくありますように、アーメン。」

<口語訳聖書>14 こういうわけで、私はひざをかがめて、15 天上にあり地上にあって「父」と呼ばれているあらゆるものの源なる父に祈る。16 どうか父が、その栄光の富にしたがい、御霊により、力をもってあなたがたの内なる人を強くして下さるように 17 また信仰によって、キリストがあなたがたの心の内に住み、あなたがたが愛に根ざし愛を基として生活することにより 18 すべての聖徒と共に、その広さ、長さ、高さ、深さを理解することができ、19 また人知をはるかに越えたキリストの愛を知って、神に満ちている物の全てをもって、あなたがたが満たされるようにと祈る。20 どうか、私達のうちに働く力によって、私達が求めまた思う所の一切を、はるかに越えてかなえて下さることができる方に、21 教会により、またキリスト・イエスによって、栄光が世々限りなくあるように、アマメン。

説教 『キリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さ』

◆新共同訳聖書の3章14節～15節をご覧ください。このようにあります。「14 こういうわけで、わたしは御父の前にひざまずいて祈ります。15 御父から、天と地にあるすべての家族がその名を与えられています」と。口語訳聖書ではこう訳されております。「14 こういうわけで、私はひざをかがめて、15 天上にあり地上にあつて『父』と呼ばれているあらゆるものの源なる父に祈る」とあります。ここを一読してパウロの言わんとすることがはっきりイメージできる人は少ないのではないのでしょうか。私自身もかつてはそうでした。新共同訳で「御父」と訳され、口語訳で「父」と訳されているギリシャ語は<パテル>です。そして、新共同訳で「家族」と訳され口語訳で『父』と訳されているギリシャ語は<パトリア>で、<パテル>の派生語です。いみは「同一の父から出た」という意味で、「家族」とか「部族」とかに訳するのがよいのでしょうか。パウロは、この天地・宇宙の全存在の源は父なる神様だと言っているのです。そしてパウロは、その全存在の源であられる父なる神様の前にひざまずいて祈ると申します。通常、ユダヤ人は天を仰ぎ、天に手を差し伸べて祈ります。ところがパウロはひざまづいて祈ると言います。パウロが、今日に至るまでの神様の奇しき導きに驚愕しつつ、感謝しつつ祈っていることが分ります。

◆わたしたちは今日・ここにおいて、いつものように共に神様を礼拝いたしております。しかし、この事実は、よくよく考えてみますと、決して当たり前とは言えない不可思議なことでもあります。先日来、ユダヤ人の通常の挨拶語「シャーローム」＝「平和がありますように」の他に、今一つの挨拶語「ペレー」＝「奇しき御業！」について再三言及しておりますが、わたしたちが今・ここにあるのは、「神様の奇しき御業」であるというほかないのではないのでしょうか。本書の著者パウロは別の書、コリント前書15章10節において、「神の恵みによって今日のわたしがあるのです」と、それこそ復活させられた者の驚きをもって祈り、語っています。「その罪、万死に値す」との自覚のパウロです。これは全キリスト者の告白、自覚と言ってよいでありましょう。

◆実は、昨日8月12日は、ある姉妹の85歳のお誕生日でした。この人の存在がなければ、今日のこの私はなかったのです。わたしの中学校時代の友達の友達のお姉さんです。皆さんも御自

身のことを振り返ってみられると、自分が今・ここにあるのは、この人のお陰だ、言える方々がおられるはずです。そして自分でも気が付いていない方々の存在がまだまだ、無限にある筈です。実はこの2日に吉田完次先生の葬儀で加西伝道所に行ってきました。そしてそこで記念品として配られた先生の文集を通して私が気付いていなかった匿名の恩人の存在を知らされました。ですから、実は毎日、毎日が、わたしたちの恩人の誕生日なのかもしれないのです。

◆16節～17節をご覧ください。こうあります。パウロの祈りです。「3:16 どうか、御父が、その豊かな栄光に従い、その霊により、力をもってあなたがたの内なる人を強めて、3:17 信仰によってあなたがたの心の内にキリストを住ませ、あなたがたを愛に根ざし、愛にしっかりと立つ者としてくださるように。」ここで、「御父が、その豊かな栄光に従い、その霊により、力をもってあなたがたの内なる人を強め」と、「あなたがたの心の内にキリストを住ませ」と「あなたがたを愛に根ざし、愛にしっかりと立つ者として下さるように」とは、同じ内容の言い換えであります。「平行法」的言い回しとして読むのがよいでしょう。これが本書冒頭の祈りで、パウロが十数回も「キリストにおいて」とパウロが言ったことの内実であります。「キリストにおいて」とは、『キリストに合わされて』とか「キリストと一体とせられて」の意味です。

◆18～19節をご覧ください。「3:18 また、あなたがたがすべての聖なる者たちと共に、キリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解し、3:19 人の知識をはるかに超えるこの愛を知るようになり、そしてついには、神の満ちあふれる豊かさのすべてに与かり、それによって満たされるように」とあります。「キリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さ」とあります。これは、イエス様によって示された神様の御愛が時空を限りなく満たしているということでもあります。キリストの御愛の永遠性です。先週に説教において、『永遠』とは「時空に満ち、時の始めから時の終わりまで貫いている事」と説明しました。

◆詩篇第117篇は今日の礼拝の始めでも聞きました。「すべての国よ、主を賛美せよ。すべての民よ、主をほめたたえよ。主の慈しみとまことは永久に、わたしたちを超えて力強い。ハレルヤ。」口語訳では「諸々の国よ、主をほめたたえよ。諸々の民よ、主をたたえまつれ。われらに賜わる

慈しみは大きいからである。主のまことはとこしえに絶えることがない。主をほめたたえよ。」この117篇は何度も言いますように詩編150篇中最小のもので、しかしその内容は無限です。全てを内包しています。文語訳「1もろもろの國よなんぢらエホバを讃まつれ もろもろの民よなんぢらエホバを稱へまつれ 2 そはわれらに賜ふその憐憫はおほいなり エホバの眞実とはとこしへに絶ることなし エホバをほめまつれ。」森田私訳「すべての国よ、主をほめたたえよ。すべての民よ、主をたたえまつれ。まことに、主の慈愛は常にわれらをおおい、その眞実は永久に変わることはない。ハレルヤ！」どのように訳しても漏れ落ちてしまうものがあります。神様の慈愛と眞実とは私たち人間の理解をはるかに越えて豊かであります。

◆20～21節をご覧ください。「20 わたしたちの内に働く御力によって、わたしたちが求めたり、思ったりすることすべてを、はるかに超えてかなえることのおできになる方に 21 教会により、また、キリスト・イエスによって、栄光が世々限りなくありますように、アーメン。」

御独り子イエス様をさえ惜しまず賜った父なる神様は、「わたしたちが求めたり、思ったりすることすべてを、はるかに超えてかなえることのおできになる方ですし、一切を叶え、万事を益としてくださる御方です。今もう一度わたしたちは自分の人生を振り返り、今まで祈り求めたことが叶えられたか、否、求めた以上に神様は応えてくださったので、わたしたちは今・ここにあることを許されているのではないのでしょうか。今日のパウロの証言、祈りはわたしたち自身のものであります。一層与って行きたい。19節の「人の知識をはるかに超える愛を知るようになり、そしてついには神の満ちあふれるゆたかさのすべてにあずかる。」これがわたしたちの歩みの先に備えられているのであります。

◆お祈りいたします。

憐み深い主イエス・キリストの父なる神様。あなたの御愛、御導き、ご計画を覚え、わたしたちは言葉ありません。只々、あなたの御憐み、御恵みを覚え感謝いたします。どうか、わたしたちの日々の生活が、あなたのご御栄光を現わし、御名を証し、そして平和を生み出すものであらしめてください。この祈り主イエス様の御名を通しみ前にお捧げいたします。アーメン。